

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700212		
法人名	特定非営利活動法人リアル・リンク京都		
事業所名	グループホーム走和の郷 2Fユニット		
所在地	京都市右京区梅津石灘町48番地		
自己評価作成日	令和5年6月20日	評価結果市町村受理日	令和5年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族様が不安などなく、安心して過ごして頂ける様に、支援をしている。利用者様、家族様、職員が毎日笑顔で、より良いケアを行いつつ、理念に寄り添った温かなケアを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690700212-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和5年7月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「走和の郷」は、NPO法人リアル・リンク京都により平成27年3月に開設されました。事業所理念「家庭的な暖かい雰囲気の中でその人らしさを大切に」を掲げています。利用者定数25名(現在23名入居中)、平均年齢は90歳、平均介護度は2.78です。食事やおやつレクリエーション、行事食は利用者の希望で決め、利用者もトマトを切るや海苔のおにぎり、パフェ飾りなど手伝っています。昨年管理者と職員数人の退職がありました。新たに昇進された管理者は、ユニット間をラウンドして職員から諸意向を聞き、課題を抽出して皆で検討することから取り組みました。職員は「利用者の声を聴き対応しています」「利用者とともに職員も楽しく仕事ができるように話し合っています」と述べています。今期4名の新規職員を迎え、主任を中心に育成に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念を提示しており、会議等で理念に沿ったケアが出来る様に意識づけている。	事業所理念や法人運営方針は、各ユニットに掲示している。毎月のカンファレンス時や諸会議でも介護のあり方を検討しており、理念に添っているかなど振り返っている。主任は「利用者の安心や安全は当たりまえであり、利用者の声をしっかり聞きながら対応するようにしています。利用者とともに一緒になって楽しめるそんな仕事ができるように会議で話し合っています」と述べている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為、交流はほとんどできていないが事業所内では子供食堂やおやじの会などが交流行事をされている。	自治会に開設当初から加入し、地域との関係構築に努めていたが、コロナ禍では事業所が地域の方たちを招待する行事を中止している。しかし、広い会議室や地下のトレーニングルームを継続して地域に開放している。右京区地域介護予防センター主催の体操教室月2回、フラワーサイコロジーでは、生け花教室月1回とフラワーアレンジメント年1回(展示があり利用者と職員の合作の作品を出展)、他に子供食堂月1回も開催している。右京ボランティア団体の会議や発表会、梅津地域包括支援センター主催の認知症カフェ(ぶらっと梅津)月1回には、職員も支援員として参加している。これらの活動はコロナ禍でも継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェに他事業所と参加し、地域の人々に理解してもらえる様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の全体会議、委員会ユニット会議で報告、話し合いをしている。	昨年度管理者の退職があり、新たに管理者が誕生している。職員の退職もあり、新体制での運営に努力している。多忙な日々を送る中、運営推進会議の開催が遅れている。	運営推進会議の開催は、グループホームの運営に義務付けられています。行政や地域包括支援センターなどの助言を受け、早急に体制を整え開催されることを期待します。

京都府 グループホーム走和の郷 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議録を作成、提出し報告をしている。	管理者は行政の担当課に事故報告書を届けているが、協力関係の樹立まではできていない。「地域ケア会議」や「梅津地区ケアマネジャー会議」に職員が出席している。	新任の管理者としては、業務上行政などの指導や助言を得る必要が、多々あるのではないのでしょうか。行政担当の方とは顔の見える関係を作り、早急に解決を要する事案から助言を得られることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し全体会議やユニット会議で話し合いをして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、権利擁護委員会(身体的拘束適正化、虐待防止、権利擁護を含む)を毎月開催している。検討された内容はユニット会議時に委員が報告している。職員間での検討もしているが、問題となるほどのものはない。研修もおこなっている。言葉づかいで不適切な口調や命令口調は使わないよう統一しており、気づいた時は注意している。センサーマット使用者は家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加しユニット会議で話し合いを行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し会議で話し合いを行い活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明を行い理解、納得して頂ける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族様の意見、要望についてはアンケートや面会時に聞き管理者に報告している。	現在家族の面会は、2日前までに予約をおこない、15分の対面で実施している。場所は小規模多機能ホール(現在休業中)を使用している。同時に外出と外泊も許可され、早速家族と散歩に行かれている。顧客満足度調査(アンケート)を年1回おこなっている。家族からは「歩くようになってほしい」「元気になってほしい」などあり、利用者の状態に合わせて何が出来るか検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談などで意見を聞いている。	管理者はユニット会議月1回や全体会議を月1回、個人面接年3回(個人目標あり、1回目と2回目は主任、3回目総括は管理者)で職員の意向を聞き取っている。実践者研修や初任者研修も職員が自ら申し出て受講している。ユニット会議では、レクリエーション活動に必要な物品や、立ち上がりしやすいソファの購入依頼に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特別休暇や有休の消化に取り組んでいる。また働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修への参加を勧めている。外部研修情報を開示して参加しやすい様にされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流の機会は作れていないがリアルリンク内での合同研修は行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の思いや要望を細かく聞き取り安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望に沿ったケアプランの立案に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の真意を確認できるように努め、他のサービス利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やレクリエーション時に一緒に行う様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告や本人様の思いを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為外出はほとんどできていないが馴染みの方の電話や面会はされている。	利用者も高齢になりコロナ禍の影響もあり、昔の会社関係の人や知人との関係は減少している。継続していた趣味も書道や墨絵、編み物、生け花などできなくなった方が多い。ぬり絵や折り紙など、できることをレクリエーションで継続している。絵を描くのがとても上手な利用者がおられ、その方は展示の機会があれば絵画に取り組み出展している。元職員が共有部分の清掃作業をボランティアとして支援している。職員は毎月家族に写真付きの便りを送り、利用者の様子を伝えている。広報紙(走和だより)を2か月ごとに発行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の性格や意向を確認し一緒に家事やレクリエーションを行う様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	取り組みは出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン見直しの時に本人様の希望や意向の確認を行い職員間でも共存している。	職員は利用者の声を聴きながら、対応するように努めている。聞き取った意向はケース記録に書きカンファレンスで検討しているが、職員間での周知はラインワークスでおこなっている。退院時の利用者の言葉に「病気で不自由になったけど元の施設で暮らしたい」「絵を描いたり、書物に触れたり歌を歌ったり、楽しい時間をすごしたい」があり、介護計画に立案し支援している。言葉のキャッチボールができなくなった方には、態度や反応、表情から想いをくみ取っている。生活歴を見たり家族からの情報も得ている。	

京都府 グループホーム走和の郷 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境や習慣好みを入居時情報を元に把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態や変化を観察しユニット会議で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行い本人様、家族様の意向や思いを取り入れたケアプランを作成している。	フェイスシートとアセスメントシートで情報を収集し、課題分析をおこなっている。毎月カンファレンスをおこない、3か月ごとにモニタリング(モニタリング表ある)している。サービス担当者会議は6か月ごとを基本として、退院時や介護保険更新時にも実施しており、家族や看護師の参加も得て、介護計画の見直しをしている。バルンカテーテル留置中の利用者がおられ、バルンカテーテル留置の取り扱いマニュアルを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを記録し、職員間で情報共有を行いケアプランの見直しができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ等必要なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為関わりが生まれていない。		

京都府 グループホーム走和の郷 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様、本人様の希望を確認して訪問診療を受けている。	入居時に希望を聞き、ほとんどの方が3か所の協力医療機関からかかりつけ医を選んでいる。1名のみ入居前のかかりつけ医を継続し、定期訪問と往診も受けている。決めるのに迷う方には看護師が相談に乗り、本人の持病等を考慮して決めている。歯科は希望者のみ訪問診療を受け、必要時には往診の依頼もできる。眼科や皮膚科など専門外来は、基本的には家族が同行しているが、必要に応じて管理者、看護師が付き添っている。訪問マッサージを契約している方もいる。入退院時は介護、看護の両面から病院と情報交換をおこない、退院カンファレンスには、家族と看護師、管理者が参加している。看護師は24時間対応もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師と情報共有し適切な受診が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療医療機関からの指示にて入退院を進めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人様、家族様に説明し同意を頂いている。	入居時に重度化した場合の対応や看取りについて、指針をもとに説明し同意を得ている。ターミナル期と判断した時に、再度聞き取っている。家族の希望に添い、この1年程の間に3名の看取りをおこなった。かかりつけ医の協力と看護師の指導により、職員も安心して適切な介護に努め、穏やかな最期を迎えられた。家族にも居室で過ごせるように簡易ベッドを用意している。看護師が常勤であり、酸素吸入や点滴にも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や委員会にて訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと利用者様と避難訓練を行っている。	コロナ禍で消防署の立ち合いはないが、夜間想定で火災訓練をおこなっている。年間計画には、防火消火避難訓練年2回、自然災害訓練年1回が示されている。訓練時は利用者も外まで避難している。各ユニットは2階以上にあるため水害についての不安はない。事業所は京都市の第二次避難所(福祉避難所)になっており、水や乾パンなどの備蓄は3週間分ある。	有事の時に地域の方の協力を得るために訓練時の参加依頼や、第二次避難所(福祉避難所)としての被災時受入れなど、運営推進会議のメンバーの助言も得て、検討されることを望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けをする際の言葉遣いに気を付ける様にユニット会議で話し合いを行っている。	研修でプライバシー保護を取り入れており、権利擁護、高齢者虐待、認知症の理解と実践、接遇、コミュニケーションなどの学びがある。話すときに視線を合わせる、背後から声を掛けない、早い口調(きつく聞こえる)では話さない、「～ちゃん」やニックネームで呼ばないなど、日々心掛けて対応している。あまりかしこまらず、失礼にならない緩い敬語を使うようにしている。トイレ介助や入浴介助、居室での更衣などの場面ではドアは閉めるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に選択して頂ける様に希望を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の意思や希望を確認して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に希望を聞き、散髪をされている。好きな服装をして頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションにて好きな食事を取り入れ、調理片付けを一緒に行っている。	ご飯は事業所で炊き、副菜は業者から弁当箱で届いたものを提供している。食事の進まない方には器を変えてみたり、刻んだり、とろみをつけるなどの工夫をしている。月に1～2回はレクリエーションとして食事やおやつを利用者と共に調理している。専用のエプロンもあり、トマトを切ったり、おにぎりを作ったり、食器の洗浄や食器拭きなど、利用者のできる事は積極的に介護プランに組み込んでいる。食事では焼き肉やハンバーグ、おやつはホットケーキやプリンパフェなどが好評である。誕生日は本人の好きなものを手作りしている。入院中の方の退院時に「おかえりなさいパーティー」で迎えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合わせた食事形態を考慮し提供している。食事量、水分を記録確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時毎食後に口腔ケアを行っている。訪問歯科を受けられており指示にて一人一人の状態に応じたケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作り作成、記録して一人一人に合った排泄の声掛け介助を行っている。	排泄表は毎日看護師が確認し情報共有している。リハビリパンツにパット使用の方が多いが、ベッド上での排泄介助の方は紙おむつである。カンファレンスで話し合い、その方に一番合ったものを選択している。夜間はポータブルトイレの方も、本人が出てこられたらそのままトイレ誘導している。歩行が不安定な方も多いため、安全の為に15名の方がセンサーマットを使用している。事業所内研修で「排泄介助・オムツについての知識」を学んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関と相談しながら個々に応じた予防に取り組んでいる。		

京都府 グループホーム走和の郷 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の希望を確認しながらゆっくりと入浴して頂ける様に支援している。	週に2～3回、時間は職員の配置が厚い時に午前午後にかかわらず入浴している。お湯は一人ひとり交換し、ゆず湯や入浴剤を入れることもある。浴室には暖房が入り、浴槽は台が外れ、左右どちらからでも入れるようにしている。利用者が重度化すれば1階のリフト浴槽を利用している。同性介助を希望する方は現在いないが、曜日を変更するなどして対応可能である。職員の適切な声がけや対応により、入浴拒否の方はおられない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は必要に応じて休んで頂く。夜間も安心して眠って頂ける様に環境整備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の体調管理を行い、必要に応じて看護師に報告、相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し役割や趣味を継続してもらえよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出はなかなか出来ていないが今後レクリエーションにて外出する予定。	コロナ禍で定期的な散歩はしづらい状況だが、職員配置に余裕のあるときは近隣の公園などに散歩に出かけている。ドライブは、天神川へのお花見や高尾に行っている。初詣も行ける方だけ近隣の神社に出かけることができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を持っておられる方は少ないが今後買い物同行を行う予定。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は自ら電話をされている。家族様から電話があれば話してもらっている。		

京都府 グループホーム走和の郷 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を行い過ごしやすい空間を作っている。ユニット内は毎月季節に合った作品を利用者様と作成し飾っている。	玄関からリビングルーム、また居室への廊下の壁に、利用者の制作した折り紙や工作を美しく飾っている。折り紙は利用者が作れる難度のものをうまく選び、それを組み合わせて季節ごとの立派な壁面飾りを毎月完成させている。今月は七夕飾りである。また絵画が得意な利用者の作品もある。リビングはボランティアと職員で掃除し清潔に保たれている。テレビの前にソファがくの字に2台置かれ、のんびりくつろいだり、洗濯物をたたんだりすることに活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人一人の状態や様子を観察し席の位置を変更したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使用されていた家具や写真などを持って来て頂き安心して過ごせるように努めている。	居室は広く、ベッド、エアコン、カーテンの設置がある。調度品は好みの物を持参しており、タンスやテレビ、仏壇を置かれる方、ひ孫さんからのプレゼントを壁に飾る方、ぬいぐるみなど、思い思いの物を自由に配置している。絨毯を敷いている方もいる。シーツ交換の時に職員が室内を掃除している。利用者は居室で過ごすよりリビングで過ごされる方が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事や製作などを利用者様から「手伝う」と言って下さることが多く使いやすい安全な環境を作っている。		